

演奏団体



白子ウインドシンフォニカ(48名) 指揮:宮木 均

収録日:2021年2月28日
収録場所:三重県総合文化センター 大ホール
演奏曲:7、10、12

1971年、鈴鹿市内の高等学校の卒業生有志が集まり創設。県内外の吹奏楽愛好家によって構成され、全日本吹奏楽コンクールへの参加、定期演奏会の開催をはじめ訪問演奏等、地域の音楽文化向上のため、精力的に演奏活動を行う。



三重県立白子高等学校(72名) 指揮:門脇 賀智志

収録日:2021年3月22日
収録場所:津市久居アルスプラザ ときの風ホール
演奏曲:8、9、11、13、17

県立高校で唯一、普通科文化教養コースがあり、吹奏楽を学ぶことができる。インターハイや全国高総文祭など、県内で開催した全国規模の大会で式典音楽を担当。



三重県警察音楽隊(23名) 指揮:中川 達也

収録日:2021年3月22日
収録場所:津市久居アルスプラザ ときの風ホール
演奏曲:11、13、17

三重県警察音楽隊は、県民の皆さんの安全・安心に寄与するため、「県民の皆さんと警察を結ぶ音のかけ橋」として、音楽演奏を通じた広報啓発活動を行っています。



皇学館高等学校(63名) 指揮:前川 幸生

収録日:2021年3月31日
収録場所:津市久居アルスプラザ ときの風ホール
演奏曲:1~6、14、15、16、19

平成30年インターハイに式典音楽隊のファンファーレ隊として参加。定期演奏会の開催、コンクールの出場をはじめ、オリンピックセレブレーションでの演奏や地域内外での演奏会等、地域交流も大切に活動している。



三重大学吹奏楽団(45名) 指揮:福岡 友也

収録日:2021年4月17日
収録場所:三重県庁講堂
演奏曲:18、20、21

前回団体では式典音楽隊の中心となり県内吹奏楽の発展に寄与した。前回団体以来、定期演奏会のアンコールで、矢代秋雄作曲の「式典終曲」を演奏している。

歌唱者



ソプラノ 伊藤 晴

三重大学卒業。武蔵野音楽大学大学院修了。パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。サル・プレイエルでのパリ管弦楽団アカデミーコンサート、マントヴァ歌劇場等で活躍。藤原歌劇団団員。



メゾ・ソプラノ 相可 佐代子

名古屋音楽大学卒業、同大学院修了。01パリシャトレ劇場研修生として渡仏。帰国後も各地で演奏活動、後進の指導も行う。津市文化奨励賞。名古屋市民芸術祭賞、名古屋音楽ベンクラブ賞受賞。



テノール 市川 和彦

東京芸術大学卒業。第26回日伊声楽コンクール入賞。文化庁芸術家在外派遣研修員としてミラノにて研修。新国立劇場オープニング記念オペラ「建・TAKERU」をはじめ22演目に出演している。藤原歌劇団団員。



バリトン 谷 友博

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。1995年渡伊、ミラノ音楽院に学ぶ。第4回ピストイアコンクール・オペラ部門第1位をはじめ数々のコンクールで優勝。藤原歌劇団、新国立劇場で活躍している。藤原歌劇団団員。

作・編曲者



錦 かよ子

津高等学校卒業。愛知県立芸術大学音楽学科作曲専攻卒業。同大学院修了。第40回、第43回日本音楽コンクール作曲部門入賞。1979年文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞（管弦楽の部）『子どものためのピアノ曲〜おとぎの国へ迷いんぼ』（河合出版）オペラ『霧のうたげ』（1994年国民文化祭みえで上演）を皮切りに多数のオペラを作曲。オペラ『いのち』は2015年新国立劇場地域招聘公演。三重中京大学短期大学部教授、同名誉教授、皇学館大学教育学部教授などを歴任。現在津市文化振興審議会委員、三重県文化評価推進会議委員など多数の社会活動も行っている。2017年第16回三重県文化賞文化大賞受賞。同年東海テレビ文化賞。2020年地域文化功労者表彰受彰。



阿部 勇一

吹奏楽曲・ブラスバンド楽曲・アンサンブル楽曲・合唱曲などの作曲を主な活動としている。1992年に「吹奏楽のためのフューチュリズム」、1995年には「行進曲ラメセスⅡ世」が全日本吹奏楽コンクール課題曲に採用された。2002年には、北東北秋田の風土を描写した「男鹿編節(おがきぬぶるい)〔大津シンフォニックバンド/森島洋一指揮〕にて第5回「21世紀の吹奏楽」饗宴」に初参加。その後2019年までに9曲採用され参加している。2007年には国民体育大会「わか杉国体-秋田県大会-」にて、開閉会式用ファンファーレや各編曲を担当した。その他、「JWECC」2013日本管楽合奏指揮者会議（於：府中の森芸術劇場どりーむホール）や洗足学園音楽大学プリディッシュプラス第40回記念演奏会などにも作品を提供し発表した。2017年、公益社団法人 日本吹奏楽指導者協会第50回JBA下谷賞受賞。2018年桑名市立正和中学校吹奏楽部の委嘱により、桑名市無形文化財の「桑名の千羽鶴」を題材とした曲「折鶴」を作曲。



牧戸 太郎

三重県松阪市出身 東京音楽大学卒業
中学時代から作編曲を開始。高校在学中に2001年「スポレク2001みえ」の運営ボランティア「やるき人」に参加し、イメージソング他、開閉会式における入場行進曲・アトラクション曲・ファンファーレ等、式典音楽の作曲/編曲を行った。大学卒業後は、1年の制作会社勤務を経て、作曲・編曲家としての活動を開始。「兄に愛されすぎて困ってます」「黒崎くんの言いなりになんてならない」「劇場版 仮面ティーチャー」等の映画「金曜ロードShow! 最高のおもてなし」(NTV) 松本清張「球形の荒野」(BS日テレ) アカザ (BSスカパー) 等のTVドラマで音楽を担当するほか、山下達郎、竹内まりや、Hey!Say!Jump、山田涼介、つるの剛士等の楽曲の編曲、ストリングスアレンジ等も手がけている。

楽曲解説

式典音楽担当 迫田 哲治

～三重とこわか国体・三重とこわか大会～ ファンファーレⅠ～Ⅵ (錦 かよ子)

三重とこわか国体・三重とこわか大会、式典の「開式通告」「開会宣言」「選手代表宣誓」「閉式通告」「閉会宣言」のために作曲された6曲のファンファーレである。
「ファンファーレⅠ」の冒頭は、オーソドックスな管楽器は使わず『歌のファンファーレ』として作曲されており、「人の声」が奏でる力強いメロディーと、打楽器のチャイムや鍵盤楽器とともに重厚なハーモニーとなり、開式の機運を高めている。Ⅱは金管楽器と打楽器、ⅢとⅤは吹奏楽編成、ⅣとⅥは吹奏楽と歌唱、と編成を変えながら式典の雰囲気に合わせて、4/4拍子や3/4拍子、9/8拍子や12/8拍子などでゆったりした流れや躍動感が表現され、曲全体をとおして気品が感じられる式典のための曲となっている。

行進曲「天高く」(阿部 勇一)

三重とこわか国体・三重とこわか大会のために作曲された公式行進曲。
冒頭、上行する16分音符から導かれるファンファーレは、今から始まる国体・大会の期待感を感じることができる。歩き出す部分であるテーマの8分音符と16分音符のリズムは、選手自らが一歩ずつ前へ進む気持ちを生み出し、演奏者にもマーチの推進力と選手たちへの応援の気持ちを表現することのできる音楽の流れがある。トリオでは、悩みながらも日々高みを目指して努力する選手たち、そして支える周りの人たちに応援され、後半は3連符でより力強さが加わり、目標へ向けて決意が固まり「天高く」躍動している。

三重POPSメドレーマーチ2021 (牧戸 太郎)

三重県ゆかりの歌手や楽曲をモチーフにしたメドレーマーチである。
4つのセクションがあり、始めの平井堅セクションでは「睡として」から「POP STAR」、ミドルエイジ・ニューミュージックセクションとして、鳥羽一郎の「兄弟船」、榎本等の「スーダラ節」、エバークリーンセクションとして、津市出身の野田暉行作曲「空がこんなに青いとは」と鈴鹿市出身の佐々木信綱作詞の「夏は来ぬ」、最後に西野カナセクションで「会いたくて会いたくて」と「GO FOR IT」で、応援の気持ちを届ける曲となっている。

～30回三重国体(昭和50年開催)～ 式典序曲・賛歌・ファンファーレ・式典終曲 (矢代 秋雄)

前回国体の式典のために作曲された4曲。
前回国体では、開会通告のアナウンスのすぐ後に「式典序曲」が2分間演奏されるなど、『音楽を式典の中心におく』という基本構想により、式典全体の流れが音楽で効果的に進行された。楽譜はシンプルであるが、式典曲として荘厳でかつ音楽的である。今でも、県内の中学校や高等学校の入学式や卒業式で「式典序曲」「式典終曲」が演奏され、国体のレガシーが音楽として受け継がれている。「賛歌」の歌詞は遠藤周作唯一の歌の詞である。

～平成30年度全国高等学校総合体育大会～ 行進曲 Millaie(未来絵) (宮川 彬良)

2018年に三重県を中心に東海地区で開催されたインターハイの式典音楽として作曲された曲。
全国から集う高校生が、競技にさきがけ行われた式典の入場行進で堂々と入場できるような序奏とテーマから始まり、途中